花職向上委員会

花職向上の「十式」

www.flower-d.com/10siki/

Class

Pleasure Line

- フローラルアート
  - ・オートマティズム
  - ・形象純化法
  - ・非形象構成法
- 効果とテーマ
  - ・表現力
  - ・対比
  - ・テーマ
- 印象とインスピレーション
  - ・クラシックフォーム
  - ・形の印象
  - ・自然界
  - ・時代様式と主義

Bottom Line

「花職向上委員会」最低限引き上げたいレベル
ボトムライン（真実の基礎ライン）

- 植物の扱い
  - ・現象形態
  - ・自然風
  - ・成長(生長)的
  - ・素材の自然な
  - ・死んだ自然
- テクニック
  - ・構成から学ぶ
  - ・花束テクニック
  - ・ブーケテクニック
  - ・寄植テクニック
- 空間と動き
  - ・自然界からの抽出
  - ・図形的（動き）
  - ・空間を感じる
- 構図
  - ・対称造形
  - ・非対称造形
- 歴史
  - ・3つのグループ分け
  - ・パラレル
  - ・重点や比率の変化
  - ・クラシック
- ハーモニー（調和）
  - ・表面的調和
  - ・動きの調和
  - ・内面的調和
- 配置
  - ・古典的バランス
  - ・古典的配置
  - ・リズミカルなバランス
  - ・リズミカルな配置
- 花に携わる
  - ・下準備
  - ・アレンジメント テクニック
  - ・花束 テクニック
  - ・ワイヤリング テクニック

花職への道

Pretense Line

Style Line

スタイルライン（パターン=スタイル）
システムだけでは理解できない場合に 多くのパターンを習得することで
本質の「システム」にたどりつけるようにする為の「スタイル」「パターン」。
目的は「システム習得の為」その本質は存在する。
※ 必ずシステムの繋がりを明確にしないと、本質が見えてこない。

System Line

システムラインとは、本質を知るためには必ず必要な知識。
システムさえ理解・解釈していれば、全ての造形に反映できるもの。
本質となるもので、これを除いては考えられないもの。

2007/07/20 β版

花職向上の「零式」　【　花に携わる　】

植物を扱うことが慣れてから、一式に入ります。ここでは最低限のルールとして、扱い方と基本操作をマスターしていきます。
あたりまえに持ち合わせているものだから基礎ではなく「ルール」として零式となります。
長く続ける必要性はありません。

花職向上の十式は、ホームページでもサポートしてます。
詳しくは、
http://www.flower-d.com/10siki/

Class	Style_Line(Pattern)
下準備	・植物専用ハサミ ・フローリストナイフ ・吸水性スポンジ ・植物の水揚げ
アレンジメント テクニック	・オールラウンドアレンジメント （ラウンド）　（ホリゾンタル） （コウン） ・片面アレンジメント （トライアンギュラー）　（ヴァーティカル） （インヴァーテッドティー） （エルシェイプ）　（ファン） （低いトライアンギュラー）
花束 テクニック	・パラレルテクニック ・スパイラルテクニック （基本的なフラワーショップの花束）
ワイヤリング テクニック	・ブーケホルダテクニック （ラウンド）　（キャスケード） ・メソッドテクニック （コサージュ）　（ヘアーオーナメント） （ラウンドブーケ）　（キャスケードブーケ）

・スタイル（パターン）は一例です。

日付 セミナー／講師	テーマ　Style_Line(Pattern)	コメント　DATA

花職向上の「一式」　【　配置　】

基本的に「リズミカル」をマスターしていきます。
感覚に頼らずしっかりとした「システム」の習得を目指してください。高低差及び間隔に対して、リズミカルを目指します。

2007年現在、花職人やフラワーデザイナーの標準的な基礎の基準値です。経験だけで進めないように続けて習得していただきたい。

Class	Style_Line(Pattern)
古典的バランス	・鏡対称など　＜零式にて＞
古典的配置	・均等配置・グラデーション配置
リズミカルなバランス	・マスでバランスを考える
リズミカルな配置	・バスケット盛り（挿し順） ・リズミカルなアレンジメント （リズミカルでオールラウンド） （リズミカルで片面アレンジメント） （リズミカルで横長アレンジメント）

・スタイル（パターン）は一例です。

フローリスト・フラワーデザイナーの現行〔　相対的なレベルカウント　〕

日付 セミナー／講師	テーマ　Style_Line(Pattern)	コメント　DATA

花職向上の「二式」　【　調和　ハーモニー　】

素材の取り合わせは大変重要なテーマです。花材・資材・器などの調和を考えます。
システムでは「統一と変化」の習得です。はじめは植物の一理的な印象で考えていきます。色彩からはじめ、三式をくぐってからまた戻り、最終的には内面調和の世界まで進めてください。
フローリスト・フラワーデザイナーにとって非常に重要な「調和」＝「ハーモニー」です。

Class	Style_Line(Pattern)
表面的調和	・色彩調和 （トーンの統一＋色相の変化） （色相の統一＋トーンの変化） ・質感調和 （構造的）　（シュトルクトゥリエルト） （マスアレンジメント） （構造的な花嫁の花束　H/W） （解かれた構造的花嫁の花束　H/W）
動きの調和	・静と動のバランス （シュターティック　リトミック） （モノフォルム）
内面的調和	・季節の調和 ・表現の調和

・スタイル（パターン）は一例です。

日付 セミナー／講師	テーマ　Style_Line(Pattern)	コメント　DATA

花職向上の「三式」　【　歴史　】

三式「歴史」には、過去の構成や造形から現代のテクニックや知識を学び取ると目的があります。全ての歴史的テーマをする必要はありませんが、幾つか重要でかつ、わかり易いテーマがあります。
構成など、歴史から学び取るものは非常に多く存在します。いきなりデザインをはじめるより、確実なステップアップが期待できます。

主に1954年以降、急激に「花の構成」として発達したものを中心としています。一方美術や芸術にも関心を抱き、「花の世界観」だけに留まらない、自由で応用のきくよう学ぶと良いでしょう。

花職向上の十式は、インターネットのホームページでもサポートしています。詳しくは
http://www.flower-d.com/10siki/

Class	Style_Line(Pattern)
３つの グループ分け	・共同形態 ・古典的ヴェゲタティーフ （＝イマジネーラープンクテ）
パラレル	・パラレル （＝装飾的）　（＝植生的）　（＝図形的） （＝フォーメーション）
重点や比率の変化	・重点を高く （ホッホシュテケン　閉じた輪郭） （ホッホシュテケン　開いた輪郭） （ホッホゲシュテクター　シュトラウス） （ホッホゲブンデナー　シュトラウス） ・ホッホフリーセント （＝ピラミダーレ） ・エンガイ形 （モダンで装飾的な花嫁の花束　H/W） （モダンで装飾的な花束）
クラシック	・クラシックフォーム （ナチュアリッヒ＝）　（ノイ＝） （ノイコンヴェンチオネル） ・低いクラシックフォーム （ノイ＝）　（高貴な自然さ＝）　（＝新解釈） ・ボーゲンフォルム ・クランツ＜花環＞ （ビンデクンスト）　（スポンジテクニック） ・ブケットシュティール （アインファセン）
その他	・物語 （シンボルの花）　（神話の花）　（聖書の花） ・西洋の様式と主義

・スタイル（パターン）は一例です。

日付 セミナー／講師	テーマ　Style_Line(Pattern)	コメント　DATA

※　履修ノートが足りない場合には、BLANKノートを足してください。

花職向上の「四式」　【　構図　】

造形の世界で重要な「構図」について研究・習得して頂きます。基本的には「対称」と「非対称」しか存在しないものですが、それらの真意をつかみ、活用していきます。

五式以上に進む場合は、少なくとも１～２テーマを行ってから進めるべきでしょう。そして完全マスターを目指します。

あたりまえの事ですが、絵画・写真・造形・ディスプレーなどの業界と共通のテーマ（常識）です。花職だけのテーマではありません。

Class	Style_Line(Pattern)
対称造形	・厳格な対称造形 ・構図の流れがある対称造形 （寄せ植え）　（アレンジメント）
非対称造形	・３つのグループ分けなどすでに三式で習得済み ・密集と拡散 （パラレル　アルス　フォアビルド） （フリーセンデス　ファレンデス） ・植生的＜ヴェゲタティーフ＞ （＝自由な形態）　（＝共同形態） ・非対称のバランス点を利用して （非対称の挿し花） （非対称で装飾的）

・スタイル（パターン）は一例です。

日付 セミナー／講師	テーマ　Style_Line(Pattern)	コメント　DATA

花職向上の「五式」　【　空間と動き　】

植物の動きを魅力的に出すには、空間を上手く扱っていきます。
その後、はじめて空気感のある作品がつくれるようになります。日本固有の文化だった「間」＝「空間」を活かす技術を学び取ります。

またグラフィカルなテーマも「空間」が必要不可欠で、これらの総合的な知識を持って「活きた空間のある」作品を作れるようにします。

Class	Style_Line(Pattern)
自然界からの抽出	・ゲリュスト ・ヴィッケル ・フェアーヴォーベネス （ウムヴォーベン）
図形的動き	・動きがモチーフ ・図形的 （植物の動きから）　（純化された動きから） （連動した動きの図形効果） （線的）　（形象的）　（形式的）　（その他） ・幾何形体を利用したグラフィック
空間を感じる	・生きた空間＆死んだ空間 （フォーマル　リニアール） （キッセン構成）　（ザハリッヒカイト） ・ロッカー （ユーバシュナイドゥンゲン）

・スタイル（パターン）は一例です。

日付 セミナー／講師	テーマ　Style_Line(Pattern)	コメント　DATA

花職向上の「六式」　【　テクニック　】

テクニック（技術）の習得をしていきます。1970年代以降、急速に複雑化したかのように見える、数々のテクニックは、構成の世界から来たものでした。それらの習得からはじめ、「花束」「ブーケ」「寄せ植え」と進めていきます。

またこれらのテクニック以上のものは存在しておりません。この「六式」までマスターして頂ければ、基本操作は全て完了します。
次の「七式」は植物の扱いですので、フローリストやフラワーデザイナーにとっては、次の「七式：植物の扱い」までが基礎となります。
テクニックが中心とまとめておりますので、頭を悩ませるような難しい造形ではありません。素直に聞き入れ、習得することで、早いステップアップが期待できます。
もちろんここでマスターされた「テクニック」は様々な表現に行く際に力強い財産となるでしょう。

花職向上員会にはホームページがあります。
http://www.flower-d.com/up/

また「花職向上の十式」はサポートページも存在しておりますので、是非ご活用ください。
http://www.flower-d.com/10siki/

Class	Style_Line(Pattern)
構成から学ぶ	・インアイナンダー （リーゲンデフォーム） （モデルンナトゥアハフト） ・引き戻す効果 （導き戻す）　（Ａ＝ツーリュックフューレント） ・アイナンダー＜シリーズ＞ （ネーベン＝）　（アウフ＝）　（ヒンター＝） （ゲーゲン＝）　（ユーバ＝） ・解かれた＜ほぐれた＞ （解かれた花束）　（フィギア） （解かれた装飾的花嫁の花束）
花束 テクニック	・スパイラルテクニック （アンコ素材の活用）　（解かれた花束） （モダンなプロポーション） （ペーパーを利用して）　（枝ものを利用して） ・シュトラウス　ミット　ウムラームング ・シュトラウス　ミット　ウンターフォーム （ラウンド）　（ホリゾンタル） （その他の表現と融合して） ・その他 （マンシュッテ）　（ヴァーゼンシュトラウス）
ブーケ テクニック	・対称的な花嫁の花束 （流れるような花嫁の花束）　（フリーセント） ・非対称でモダンクラシック＜花嫁の花束＞ （初級）　（中級　非対称の花嫁の花束） ・非対称の花嫁の花束＜W/H＞ ・ブラウトシュムックなど （チューテ）　（バスケット）　（エリプセ） （クーゲル）　（シュターブ＆ゼプター） （マフ）　（アームライフ）　（ガーランド） （リング＆クランツ）　（垂れ下がったフォーム） （ユーバーアルム）　（ボーゲン） （ペンデル）　（無数のテーマ性まで）
寄植テクニック	・ハンキングバスケット ・寄せ植え
その他	・コラージュ （システマティズム）　（リズム） （オートマティズム） ・ブルーメンゲフェース

・スタイル（パターン）は一例です。

日付 セミナー／講師	テーマ　Style_Line(Pattern)	コメント　DATA

※　履修ノートが足りない場合には、BLANKノートを足してください。

花職向上の「七式」　【　植物の扱い　】

花職人にとって「七式：植物の扱い」までが基礎となります。
今までの装飾効果と、右の「Class」５ヶ・植物の扱い方法を習得して、はじめてプロの領域に入ります。
すべての植物の扱いをマスターすることを基本の目標としてください。「七式」まではデザインという名の付く造形はしていません。基礎を習得するうえで、必要なカテゴリーです。

Class	Style_Line(Pattern)
現象形態	・自然な挿し花 ・ペルゼーンリッヒカイト （大主張）　（中程度／プルンクフォルム） （共同形態／ボーゲン　ゲシュタルトゥング）
自然風	・ナチュアリッヒ＜自然風＞ （ホリンゾンターレ＝Ｆ）
成長（生長）的	・ヴクスハフト （成長的なグループ分け）
素材の自然な	・ナチュアリッヒカイト＜素材の自然な扱い＞ （シュティック）　（アレンジメント） （高貴な自然さ）
死んだ自然	・成長＝発展しない自然さ （静物画）

・スタイル（パターン）は一例です。

「花職向上委員会」最低限引き上げたいレベル　Bottem_Line（真実の基礎ライン）

日付 セミナー／講師	テーマ　Style_Line(Pattern)	コメント　DATA

花職向上の「八式」　【　印象とインスピレーション　】

「七式：植物の扱い」までが揃った花職人は、プロとしても一段階進んでいきます。
　ここにあるテーマは「七式」までをマスターされていない方でも、可能なテーマです。しかしテクニック的な部分での習得は、この部分では大変難しくなってきます。

　ようやく「デザイン」と言われる世界に入ってきました。基礎を習得した上にある楽しい造形の世界です。様々なテーマで表現力をあげていきます。
　ここでは花のテクニック以外も習得して頂きます。より他業種とのリンク、またはデザイン力を掴み取る為に、印象やインスピレーションで作品を構築していきます。

　今までのテクニック・知識と異なり、１つ１つのテーマをしっかり理解し、自分自身の作品に仕上げることができて、この「八式」はマスターできます。

Class	Style_Line(Pattern)
クラシック フォーム	・トライアンギュラー （モダン＝）　（古典的なフォームを個性的に） ・その他のアレンジメント （クラシッシュ　アルス　フォアビルド） （アラジェマー／ホリゾンタルを意識した） （ピラミッド　インスピレーション） （ウムクランツェン）
形の印象	・幾何形体 （幾何形体を手本として　型＆テクニック） （モノフォルム／幾何形体） ・形態論＜ファルベ　ウント　フォルム＞ （青＝鈍角）　（赤＝直角）　（黄＝鋭角） ・その他　（クローネなど）
自然界	・自然なグループ分け　＜本来の配置＞ ・季節の印象 （ヤーレスツァイト）　（夏） ・ランドシャフト＜景観＆風景＞ （＝インプレッション） （インタープレタチオーン） ・マーラリッシュ＜自然界より＞
時代様式 と 主義	・西洋の様式学＜インスピレーション＞ （ロマネスク＝）　（ゴシック＝） （ビザンチン＝）　（マニエリスム＝） （バロック＝）　（ロココ＝） （ダッチ　アンド　フレミッシュ） （コンストラクティブ＝）　（機能主義＝） （アールヌーヴォ＝）　（アールデコ＝） ・主義＆アート＜インスピレーション＞
その他	・素材からのインスピレーション　＜もの＞

・スタイル（パターン）は一例です。

日付 セミナー／講師	テーマ　Style_Line(Pattern)	コメント　DATA

※　履修ノートが足りない場合には、BLANKノートを足してください。

花職向上の「九式」　【　効果とテーマ　】

表現力を鍛え、様々なテーマを考えていきます。現代そして過去のテーマを花の世界だけでなく、様々な分野から抽出したものを習得することで「ものづくり」の原点を学ぶことができます。
「効果」や「テーマ」で作品を構築し、それぞれの本質と向き合い、新しい造形や、自分らしい作品にも取り組んでいきます。
まだわずかに学ぶことはありますが、学ぶことより「研究する」ことが主なテーマとなっていきます。

花職向上員会にはホームページがあります。会員及びその他の花職向上を目指す人たちの、様々な交換の場になって欲しいと願います。
http://www.flower-d.com/up

Class	Style_Line(Pattern)
表現力	・印象と表現力 （ロマンティック）　（田舎風） （ノスタルジー）　（有機的）　（詩的） （オプレント）　（その他） ・演出効果 （庭のシーン）　（タブロー） ・その他
対比	・様式＜シュティール＞ （＝ブルッフ）　（＝ミックス） ・異化効果 ・その他の対比 （中央と周辺）　（言葉による対比） （人工と自然）　（平面と立体）
テーマ	・トランスファーレント ・ノイフンクティオナーレ（新機能） ・プロポーション　＜過小と過大＞ ・立つ花束＜シュティーシュトラウス＞ （ビンデンデス　ビュンデルン）　（パラレル＝） （スタンディングシュトラウス） ・アルタナティーフ ・アインファッハ＜簡素＞ ・ペアリング　＜関連付ける＞ ・バオム＜樹木＞ ・求心的と遠心的 ・構成学より （積層＆層状）　（並べる）　（編む） （添える）　（その他）
その他	・オブジェ （オブジェクトハフト）

・スタイル（パターン）は一例です。

日付 セミナー／講師	テーマ　Style_Line(Pattern)	コメント　DATA

花職向上の「十式」　【　フローラルアート　】

Class	Style_Line(Pattern)
フローラル アート	・オートマティズム ・形象純化法（抽象） ・非形象構成法
その他	

人間の第六感（感情も含む）に頼るように、得体の知れない「もの」から授かることは非常に困難で、理解不能です。本来の「ものづくり」の手法を知らない人は、いつもそういった「第六感」に頼るようです。
また見る人の多くは「センス」や「感性」と言う曖昧な表現で評価し、片付けてしまいます。もちろん評論家も同じこと。

一方、花職の「欧米化」も進み、「かたち」のあるものしか認めない方向性さえも出てきてしまいました。「センス」「感性」だけが残っているのは少し都合が良すぎではないだろうか。「花の基礎」＝「七式」を飛び越え、すぐここに来たがるのは、都合が良すぎ中身の無い造形になりがちです。

元来は造形の「痕跡」を残すために過去や記憶・かたち・風景・物事などと結びつけ、造形していくものだったはず。その元となる「考え」と「構築方法」をマスターするのが、現代の最終章とも言われています。
ここはまだ区切りをつけるのは早すぎるかも知れません。しかし、現代の「動向」の中では、ここで締めくくるのが一番正解ではないだろうか。

日付 セミナー／講師	テーマ　Style_Line(Pattern)	コメント　DATA

花職向上委員会
http://www.flower-d.com/up/

Name

花職向上の「　　」　【　　】

Vol.

BLANKノート

日付 セミナー／講師	テーマ　Style_Line(Pattern)	コメント　DATA